

環境未来都市提案書概要(様式2)

目指すべき将来像【1.(1)】:

〔生命つながる「持続する環境の島」〕

・豊かな自然の中で暮らす人々が、自然との実りある関係を築きながら、資源、資金、仕事を分かち合い、支え合って、身の丈に合った幸せを実感できる社会、誇りの持てる美しい地域をつくる。そして、これを淡路島らしい固有の文化、価値として次世代に引き継ぎ、将来の長きにわたって持ちこたえさせる。そうした地域の姿を「生命つながる「持続する環境の島」」とし、その実現を目指す。
 ・生命つながる「持続する環境の島」は「エネルギー」「農と食」「暮らし」の3要素からなる。この3要素の持続を高める取組をバランスよく、かつ相互に連携を図りながら展開することにより、3つの持続で支えられた強靱な地域として、目指す地域像の実現を図る。

〔エネルギーが持続する地域〕

・***2050年成果目標:エネルギー(電力)自給率100%、二酸化炭素排出量88%削減(1990年比)**
 ・地域資源を生かした再生可能エネルギーのベストミックス
 ・豊かさと同立するエネルギー消費の節減・最適化

〔農と食が持続する地域〕

・***2050年成果目標:食料自給率(生産額ベース)300%以上、食料自給率(カロリーベース)100%以上**
 ・農と食の志をもった人材が学び、育つ
 ・安心と健康を支える食の生産・供給拠点

〔暮らしが持続する地域〕

・***2050年成果目標:生活満足度90%、持続人口(定住人口+交流人口)18.1万人**
 ・誰もが安心して生涯現役で暮らし続けられる
 ・国内外から人が集い、豊かな交流と活力が広がる

課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>環境 a)低炭素・省エネルギー「エネルギー自立の島づくり」
 <課題・目標>
 ・多様な主体の連携により、様々な地域資源を最適に活用して再生可能エネルギーを創出し、外的な環境変化や災害・事故等のリスクに強いエネルギー自立の島をつくる。
 ・島民の主体的取組により、環境対応自動車の導入や家庭・事業所でのエネルギー消費の見える化を進め、エネルギー消費の少ないライフスタイルが定着した美しい地域をつくる。
 <取組方針>
 ・地域資源を最大限に活用した再生可能エネルギー創出への重点的取組
 ・重点地区における先導モデルの取組と全島共通で実施することのできる取組の速やかな全島展開
 ・エネルギー自給率を高める取組による今以上に質の高い暮らしの実現
 ・島民出資による再生可能エネルギー発電所整備の仕組みづくり
 ・環境対応自動車の普及と電動コミュニティバスの導入による安心して移動できる環境整備
 ・島民の自発的な努力と創意工夫によるエネルギー消費の最適化
 ・子どもたちに向けた環境学習の場づくりなど、「環境立島淡路」島民会議を中心とした島民運動の展開

課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>超高齢化対応 g)地域の介護・福祉「健康長寿の島づくり」
 <課題・目標>
 ・「健康」と「社会参加」をテーマとした地域づくりを進めることにより、誰もが生涯現役で安心して暮らし続けられる地域をつくる。
 ・「移動・交通」をテーマとした取組を進めることにより、年をとっても一人になっても安心して暮らし続けられる地域をつくる。
 <取組方針>
 ・地域資源とこれまでの蓄積を生かしながら住民の健康を維持・向上させるための場づくりと機会提供
 ・遊休施設・未利用地等を生かした住民の健康回復・健康づくりの新たな拠点づくり
 ・いざというときに安心して医療・介護を受けられる環境の維持充実
 ・高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の生活を支えるソフトなインフラ整備(センサー技術など最先端のICTを活用した効率的・効果的な見守り・生活支援の仕組み)
 ・障害者、ニート、引きこもりなどを対象とした、社会参加の意志やそれに応じた役割を果たすことができる場としての「ソーシャルファーム」の整備
 ・農山漁村地域における高齢者の暮らしの質を高める新しい移動手段の整備(燃料を再生可能エネルギーに転換し環境負荷を低減)

課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>その他-1)農林水産「食の島づくり」
 <課題・目標>
 ・農と食の志を持った人材を集め、専門人材として育成し、地域、全国に輩出する島をつくる。
 ・活力ある農漁業を持続し、世界に安全・安心・美味の食材を提供する島であり続ける。
 <取組方針>
 ・恵まれた生産環境を生かした、耕作放棄地の活用による農業・食関連産業の人材育成拠点の形成
 ・農・食を持った専門人材の育成と、地域、県内、さらには日本全国への農業・食関連産業の担い手輩出
 ・遊休施設を活用した薬用植物栽培や大規模未利用地を生かした滞在型農園整備など、「農」の健康・癒しへの価値を引き出す取組を中心とした新しい農業・食関連産業の提案・実践
 ・島内の農・商・観光が連携した全島の農水産品の統一ブランド化などによる農水産品の競争力向上
 ・高齢者にやさしい交通システムの構築や、漁業のグリーン化による農漁村の持続可能性向上

課題・目標・取組方針【1.(2)】

<分類>その他-2)観光・ツーリズム「豊かな交流と活力が広がる島づくり」
 <課題・目標>
 ・地域内外の人材が協働で、食の魅力や歴史・文化など地域の強みを生かした新しい地域活性化に取り組み、人が集まる地域をつくる。
 ・楽農生活やスローライフを志向する若者や都市住民の移住・二地域居住を積極的に受け入れ、新しいライフスタイルを求める人が集まる交流空間をつくる。
 <取組方針>
 ・集落間連携と外部人材との協働による地域固有の自然と歴史・文化に根ざした地域活性化のモデル的取組
 ・都市型ではないスローライフの提案・実践による若者や都市住民の二地域居住や移住の促進
 ・外部の斬新な視点の導入による地域資源の再発見と活用
 ・島民の景観への関心を高め、景観づくりを島民運動として推進する機運の醸成
 ・本構想の様々な取組が全体として調和の取れた淡路島らしい地域景観を創り上げていくよう配慮
 ・島の風土と地域資源を生かした新たな価値観と豊かな発想による新しい産業創出と人材の交流とネットワーク形成の場づくり
 ・各人が自分に合う働き方・生き方を見出し、身の丈に合った小さな生業を興す主体的な行動の支援

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.洲本市五色:エネルギーと暮らし自立モデル地域・住民・事業者の創意工夫による創エネと、それらが暮らしや産業に活用され、省エネ化・低炭素化、さらに安心につながる地域モデルを創出する。
 ・再生可能エネルギーによる地域の発電所づくり
 ・エネルギーの自立と暮らしの安全・低炭素化マネジメントシステム
 ・コミュニティ単位での排出量取引や再生可能エネルギーへの投資と地域還元

(次ページへつづく)

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.健康長寿島づくり
 高齢者、障害者、ニート、引きこもり等が健康で生き生きと暮らせるための拠点・基盤整備を実施する。
 ・7つのセラピーによる健康の島づくり
 ・淡路市南鶴崎:健康回復・健康づくりの拠点形成
 ・洲本市中心市街地:高齢者等の安心を支える基盤整備
 ・南あわじ市志知:「ソーシャルファーム」の整備

(次ページへつづく)

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.淡路市野島:農と食の人材育成拠点・健康の里づくりモデル
 地域・企業連携により農業人材育成と農地の活用・集約化、就農支援に取り組み、食の自立力・大都市圏への供給力を高める。また、薬用植物の水耕栽培及び露地栽培技術の確立に取り組みほか、土取り跡地を農に親しめる低炭素なクラインガルテンとして再生する。
 ・農と食の人材育成拠点の形成
 ・健康・癒しの里づくり

(次ページへつづく)

5年以内に実施する取組内容【2.(1)】

a.淡路市長澤・生田・五斗長:地域資源を生かした小規模集落の活性化
 淡路市中央部の丘陵地帯に位置する長澤・生田・五斗長の各地区がもつ歴史・文化・食などの地域資源を最大限活用し、訪れる人々が地域内を周遊できるよう、3地区を一体として面的にとらえた集落活性化に取り組み。

(次ページへつづく)

(前ページからつづく)

b.南あわじ市沼島:エネルギーとなりわいの自立モデル
 島民の意欲・知恵と先端技術を融合させながら災害に強いエネルギー自給100%の島をめざすとともに、子どもから高齢者まで豊かな自然の中で健康を取り戻すブルー・エコツーリズムを展開する。
 ・島ぐるみのエネルギー自立
 ・減災のための安心拠点化とスーパーグリッドの実証実験
 ・沼島の恵みと歴史を生かしたブルー・エコツーリズムの推進

c.再生可能エネルギー創出の全島展開
 太陽光発電や潮流発電など、再生可能エネルギー創出のベストミックスによるエネルギー自給の向上を目指す。
 ・大規模な土取り跡地等の未利用地を活用した太陽光発電所の整備
 ・事業所・家庭での太陽光発電の導入促進
 ・日本有効の潮流を活用した潮流発電の検討

d.地域でのエネルギー創出を支える仕組みづくり
 地域資源を生かしたエネルギーづくりに共感する淡路島民や島外の市民、さらに島内の金融機関・企業を中心に島外の企業等の参加も得て市民ファンドを組成し、再生可能エネルギー発電所の整備に対する投資を段階的に拡大する。

e.環境にやさしい乗り物の普及促進
 低炭素で環境にやさしい乗り物の普及に向けて、電気自動車の普及促進、再生可能エネルギーを活用した電気自動車充電設備の整備等に取り組む。
 ・電気自動車の普及促進
 ・再生可能エネルギーを生かした電気自動車充電設備の整備
 ・ユビキタス充電の仕組みづくり
 ・電動コミュニティバスの運行

f.家庭・事業所でのエネルギー消費の最適化
 再生可能エネルギーの創出と並行して、家庭や事業所における様々な工夫を生かしたエネルギーの無駄節減による最適化に取り組み、温室効果ガスや資源消費の削減を通じた環境への負荷低減、エネルギー自立力の向上を推進する。(うちエコ診断、事業所省エネ診断)

g.「あわじ環境未来島」島民率先行動の推進
 「あわじ環境未来島構想」の推進、「環境立島淡路」の実現のため、行政、事業者、各種団体のみならず、島民一人ひとりが実施可能な活動に主体的に取り組む、島民ぐるみの運動として推進する。
 ・あわじ全島ゴミゼロ作戦
 ・あわじ菜の花エコプロジェクトの推進
 ・環境未来島エコキッズ育成事業
 ・「環境立島淡路」島民会議の運営

(前ページからつづく)

b.高齢者にやさしい持続交通システムの構築
 ・農漁村で高齢者の移動を巡る様々な課題が生じていることを踏まえ、農漁村の移動手段の持続化・低炭素化と高齢者の健康維持をめざし、再生可能エネルギーを利用した高齢者用移動体の開発とコミュニティとしての実証に取り組む。

(前ページからつづく)

b.南あわじ市志知:農の人材育成と流通拠点整備モデル
 大学学部を設置し、地域出身者を含めた人材の育成や新たな生産システム構築などの産官学連携を実施する。また、食の拠点施設を整備し、大学学部との連携による実証的取組を通じて異業種間連携やふるさとのファンづくりを推進する。これにより、地域の農水産業を「人材育成」と「地域連携」で活性化させる。
 ・農を主軸とした地域再生の担い手を育成する大学学部整備
 ・淡路島まるごと食の拠点施設の整備

c.漁港の電動化・ハイブリッド化による漁業のグリーン化
 化石燃料への依存度が高いといわれる農林水産業の中でも、特にその傾向が強く大量の温室効果ガスを排出している漁船の動力のグリーン化実証に取り組む(完全電動漁船、ハイブリッド漁船)。

d.食のブランド「淡路島」の推進
 高いブランド力を背景に競争力を持つ淡路島の農水産物・加工食品の生産・流通・消費・観光が一体となって、食料生産拠点としての魅力をさらに引き出すとともに、大消費地や海外での新たな需要の開拓を目指し、食のブランド「淡路島」推進戦略を展開する。

(前ページからつづく)

b.島まるごとミュージアム化の推進
 歴史的・文化的価値の高い古道や美しい海岸線、緑豊かな自然、農山漁村や歴史あるまちなみなど、特徴的で恵まれた良好な景観を有する淡路島全体をミュージアムととらえ、多くの住民の参画を得て、古道の再生や景観づくり運動を推進する。
 ・「ウォーキングミュージアム」の整備
 ・淡路島景観づくり運動の推進

c.地域資源を生かしたしごとづくり
 淡路地域の資源である豊かな自然からもたらされる付加価値の高い農水産物、「瓦」産業や「線香」産業といった特色ある地場産業の集積、国生み神話に彩られた伝統文化、世界一の鳴門の渦潮をはじめとする観光資源などを活用した淡路地域のリズムにマッチしたしごとづくりに取り組み、地域の活性化につなげる。

複数の課題・目標を一体的に進める事項(相乗効果や副次的効果についての簡単な解説を含む)【1.(3)】

・< 、 、 、 > 生命つながる「持続する環境の島」が実現:地域持続の基盤として、まず、自然の恵みから暮らし・産業に不可欠なエネルギーを引き出しながら(環境価値の実現)、農と食を軸に地域経済の循環構造を構築し(経済的価値の実現)、その2つの基盤の上に、誰もが生きがいをもち安心して暮らせる地域社会を構築する(社会的価値の実現)ことによって目指すべき将来像を実現する。

・< 、 、 、 > まちからむらへ:エネルギー、食料の脆弱性に加え、高齢化に伴う大都市での生活の限界に対して、豊富なエネルギー資源(環境価値)、活力ある食料生産・食関連産業(経済価値)を有し、かつ、地域コミュニティにおける共助の意識(社会価値)が保たれている地方部において、ゆとりある生活空間を提供することで、環境、経済、社会の全ての価値を高める新しいライフスタイルを求める都市住民の受け皿となる。

・< 、 、 、 > 空間活用:下記の取組を複合的に展開することで、単一価値の実現に止まらず、環境、経済、社会のいずれの価値も向上するような地域づくりを進める。

【遊休空間を活用した産業創出】

・大規模未利用地を生かした太陽光発電等のエネルギー創出事業、耕作放棄地や廃校を活用した農業人材育成事業、廃校を活用したカフェにおける農業の6次産業化やアトリエ開設による新しいツーリズムの創造など、遊休空間を時代が求める新しい産業を創出するフィールドとして有効に活用する。

【人と人のつながりをつくる場づくり】

・地域共同の太陽光発電所整備、その収益の一部を生かした街並み整備や交流拠点整備、地域ぐるみの食の買い支えなどを島民運動として展開することにより、住民の共助の意識を高めていく。